大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

Press Release

取り組み

2026年8月20日

大阪大学がDX認定を取得

―先進的DXの取り組みを推進、国内大学で3校目―

【大阪大学 DX サミット：8/28（金）13:30～@銀杏会館（吹田キャンパス）およびオンライン】

❖ 概要

国立大学法人大阪大学（所在地：大阪府吹田市、総長：熊ノ郷 淳、以下 大阪大学）は、経済産業省が定める「DX 認定制度」に基づくDX認定を取得いたしました（認定日：2026年8月1日、手続き番号：DX-2026-08-0032-01）。本認定の取得は、国立大学法人として2校目、大学としては3校目となります。

DX 認定ロゴマーク

大阪大学は、中長期的な経営ビジョンである「OU マスタープラン 2027」に基づき、教育・研究・経営の各領域を横断する全学 DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進してきました。DX 認定制度の審査基準に基づく提出書類等の審査の結果、推進体制・方針等が基準に適合していると認められ、このたび DX 認定を取得しました。大学組織は教育・研究・経営が部局ごとに分散し、公共性やセキュリティ等の要請も高いなど、DX 推進の前提となる仕組みが複雑であり、これまで DX 認定の取得例は限定的でした。本学では、こうした特性も踏まえ、全学横断で DX を推進する体制・戦略を整備し、継続的な改善に取り組んでいます。

DX 認定の取得により、本学の DX 推進に関する方針や体制を国の統一基準に基づいて示すことが可能となります。これを踏まえ、学内の DX を継続的に改善し、大学運営の高度化と学生・教職員向けサービスの向上に取り組んでまいります。

また、2026年**8月28日（金）**には、大阪大学銀杏会館において「**大阪大学 DX サミット 2026**」を開催し、DX 認定の取得につながった教育・研究・経営を変革する具体的な取り組み事例を紹介します。つきましては、本イベントのご参加・ご取材をお願い申し上げます。

【大阪大学 理事・副学長（兼）OUDX 推進室長 尾上孝雄のコメント】

このたびの DX 認定取得は、本学が全学的に推進してきた DX の方針・体制・実行が評価されたものと受け止めています。OUID や OU 人財データプラットフォーム、デジタル学生証・教職員証などの基盤整備に加え、生成 AI や RPA の活用を通じた研究力向上、業務変革をさらに加速し、教育・研究・経営の質を高めてまいります。大阪大学は今後もスピードを緩めることなく DX を推進し、社会に対する価値創出と高等教育の発展に貢献していきます。

❖ DX 認定制度について

「DX 認定制度」は、デジタル技術による社会環境の変化に対応し、持続的な成長に向けた変革を推進する体制・戦略等を整備している事業者等を、国が一定の基準に基づいて認定する制度です。

❖ 大阪大学の主な DX 推進の取り組みと成果

大阪大学では、大学運営の高度化と、学生・教職員の利便性向上および安心・安全の両立を目指し、以下のような取り組みを進めています。

- 大阪大学統合 ID（OUID）による、学内外向けサービスの利便性向上：学内外向けの各種情報システム利用において、共通 ID 基盤を中心とした統合を進め、利用者（学生・教職員および学外者）の手続き・認証の負担軽減と、セキュリティの向上を両立。
- OU 人財データプラットフォームの構築による、意思決定・人財戦略の高度化（教育支援を含む）：部局ごとに分散しがちな人財関連情報を集約し、教育の質向上・組織運営・人財マネジメントに資するデータ利活用を推進。例えばスチューデント・ライフサイクルサポートセンター（SLiCS センター）では、OU 人財データプラットフォームで整備したデータ（学修支援に必要な範囲）を適切な権限管理の下で活用し、学生が自ら将来の目標や学びを見つめ直し、学修をより良くしていくことを支援する「SLiCS システム」を開発しています。2026 年 4 月には「ダッシュボード」および「e ポートフォリオ」を公開し、今後も機能を順次拡充していきます。
- デジタル学生証・教職員証、顔認証等の活用によるキャンパス体験と運用の刷新：デジタル学生証・教職員証の活用や顔認証入場システム等により、学内外サービス連携を見据えた利便性の高い仕組みを展開。例えば附属図書館に導入した顔認証入場システムにより、図書館職員が従来行っていた図書館利用者票の発行や、カウンターでの本人確認対応にかかっていた時間を削減することができ、学術論文等のオープンアクセス支援、文献検索やデータベース利用に関する相談等、利用者の学習や研究をサポートする専門性の高いサービスに、より注力できるようになりました。
- 生成 AI・RPA 等の活用による、事務業務の変革：全学事務系職員による生成 AI 活用、AI エージェント活用、RPA 実装等を通じ、定型業務の効率化と、付加価値業務へのシフトを推進。
- 内製による DX 人材育成と、サイバーセキュリティ強化の両立：全学事務系職員向け IT 人材育成研修（内製）の実施、情報処理技術者試験合格者数の増加、機微情報を扱う端末に対する対策等により、推進力と安全性を同時に高める。

2025 年には、これらの取り組みが高く評価され、日本 DX 大賞 2025「業務変革部門」において最高位である大賞を受賞しています。同賞「業務変革部門」における大学 DX の大賞受賞は初の事例です。

❖ 本件に関連するイベント情報

8 月 28 日（金）に大阪大学で開催するイベント「大阪大学 DX サミット 2026」において、DX 認定の取得につながった教育・研究・経営を変革する具体的な取り組み事例を紹介いたします。本イベントをご取材いただける際は、以下の Web 申請フォームから登録をお願いいたします。

イベント名：**大阪大学 DX サミット 2026 ～ 教育・研究・経営を変革する大学 DX 最前線 ～**
https://www.d3c.osaka-u.ac.jp/2026/06/oudxsummit2026/
日　　時：2026 年 8 月 28 日（金）13:30～17:40
場　　所：大阪大学 吹田キャンパス 銀杏会館 3 階 阪急電鉄・三和銀行ホール（オンライン配信あり）
アクセスマップ ｜ 大阪大学医学系研究科・医学部

イベント概要：

大学を取り巻く環境が大きく変化する中、データ活用、生成 AI、ID 基盤、研究 DX、教育 DX など、大学の変革を支える取り組みが各大学で加速しています。本イベントでは、大学 DX の実践者・推進者が集い、最新の取り組みや課題、今後の方向性を共有します。

発表内容（予定）：

・OUID、デジタル学生証／教職員証、顔認証等の紹介
・教育 DX として、SLiCS センターの取り組み紹介
・生成 AI・AI エージェント・RPA の業務活用事例紹介（実運用の工夫、ガバナンス）
・OUDX 推進室 副室長・教授 鎗水徹、および担当教員による取材対応（囲み・個別）

主な講演と登壇者：

「教育 DX ロードマップと高等教育」
　デジタル庁 国民向けサービスグループ教育班リーダー　八田　聡史
「香川大学の DX 推進及び DX 推進人材育成の取り組み」
　香川大学情報化推進統合拠点 DX 推進研究センター長　八重樫 理人
「教育・研究・経営をデジタルで変革する～大阪大学の研究 DX、生成 AI 基盤の実例紹介～」
　大阪大学 OUDX 推進室 副室長・教授　鎗水 徹

❖ **取材申込について**

※ご取材本イベントについて、ご取材いただける際は、会場設営の関係上、8 月 25 日（火）16 時までに以下の Web 登録フォームから申請をお願いします。

「大阪大学DX認定取得」に関するイベントへの参加登録フォーム

https://forms.cloud.microsoft/r/54MSAXu6Ew